

遊休施設を活用した「地域の居場所づくり」の実態に関する研究

—東京都文京区における施設形態ごとの利用実態に着目して—

A Study on the Actual Situation of “Creating Local Location” of Unused Facilities

- Focus of actual usage for each facility type in Bunkyo-ward, Tokyo -

○亀澤結香¹, 岡田智秀², 落合正行²

*Yuika Kamezawa¹, Tomohide Okada², Masayuki Ochiai²

Abstract: The purpose of this paper is to clarify actual situation of “Creating Local Location” in Bunkyo-ku, Tokyo. As a result, it clarified actual usage for each facility type.

1. 研究目的; わが国では、少子高齢化に伴う高齢者の増加や核家族化による人間関係の希薄化などから、社会的孤立やひきこもり、虐待の主な地域課題を抱えている。こうした現状に対して住民福祉活動支援組織である社会福祉協議会は、地域共生社会の実現を目指し¹⁾、人と人の繋がりを生み出す「地域の居場所づくり」を進めている。なかでも、文京区社会福祉協議会（以下；文社協）は、区内全域に地域福祉コーディネーター^(1) 2)を配置し、地域住民の実情を把握すべく、公共施設内への交流スペースの設置、共同住宅の集会所の活用、戸建て住宅の住み開き、さらには空き家や空きビル（以下；空き家等）などの遊休施設を活用した「地域の居場所づくり」を行っている。こうした取り組みは、縮小する公共施設の代替案や、増加する空き家の地域的活用に向けた有効な手段となると考える。そこで、本研究は東京都文京区の「地域の居場所づくり」を対象に、活動場所となっている施設に着目し、施設形態ごとに利用実態を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法; 以上を踏まえ、文社協からの提供資料をもとに表1（A）に示す調査を実施した。さらに、施設の実態を詳細に把握するため、各施設の所有者または運営者に対して表（B）に示す補足調査を実施した（表1）。

3. 結果および考察; 表1（A）の結果、施設形態⁽²⁾および対象者の属性、活動内容⁽³⁾の種別まで把握できた施設は全95施設あり、その内訳（表2）は[集会施設]が32施設（34%）と最も多く、次いで[住宅]が17施設（18%）、[福祉施設]が15施設（16%）の順に多く、施設形

態も9種類にもおよぶことがわかった。また、全95施設の利用団体は204団体あり、施設形態ごとの対象者別数および活動内容の種別数と、それらの割合を示したのが図1・2である。以降はこれらをもとに考察する。

(1) 教育施設・宗教施設・医療施設; 図1・2より、教育施設・宗教施設・医療施設は、子どもから高齢者まで対象者に偏りがなく、また活動内容においても幅広く利用されていた。聞き取り調査によると、例えば、「東京大学内テニスコート」（教育施設）では、年齢を限定せず一緒にスポーツを楽しむ活動をしていたり、「定泉寺」（宗教施設、写真1）では、子ども食堂や子どもの宿題を教えるなど、現代の寺子屋としての役割を果たすものがあるほか、「細部小児科ポケットランド」（医療施設）では、病院の上階の空きフロアを子育て支援広場として活用しており、育児相談や院長のお話会などが開催されている。これら施設は、地域住民の日常生活に馴染み深いものが多く、

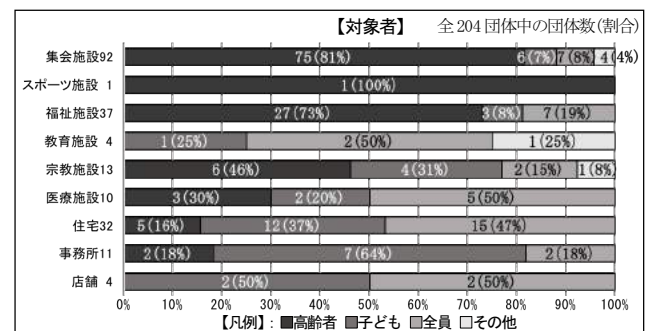


図1 施設形態ごとの対象者の属性と割合[筆者作成]

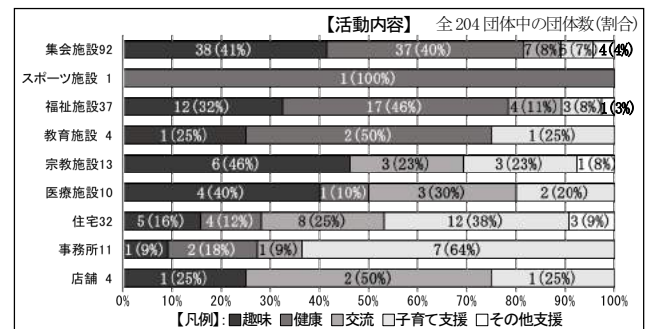


図2 施設形態ごとの活動内容の種別と割合[筆者作成]

表1 調査概要[筆者作成]

(A) 資料調査			
日時	2019年5月25日(土)~8月31日(土)		
対象	文京区社会福祉協議会からの提供資料		
内容	施設数・利用団体数、施設の基本情報および利用実態		
(B) 聞き取り調査			
日時	2019年6月21日(金)	2019年8月20日(火)	2019年8月25日(日)
対象	当該施設の担当者		
内容	活用経緯、利用実態、活用の工夫点、所有者と運営者、支援状況		

表2 施設形態ごとの施設数と割合[筆者作成]

施設形態 9種類	施設数 ()	遊休	割合
集会施設	32	34%	
スポーツ施設	1	1%	
福祉施設	15	16%	
教育施設	6	6%	
宗教施設	11	12%	
医療施設	2	2%	
住宅	17(4)	18%	
事務所	6(1)	6%	
店舗	5	5%	
計	95	100%	

1：日大理工・学部・まち 2：日大理工・教員・まち

老若男女問わず認知度が高い施設である。また、社会情勢による需要の変動が大きく、余剰空間が生じやすい施設であり、これらの点が活用に至った要因に挙げられる。

(2) 集会施設・スポーツ施設・福祉施設; 図1・2より、集会施設・スポーツ施設・福祉施設は、7割以上が高齢者を対象とし、活動内容は趣味・健康が大半を占めていた。聞き取り調査より、例えば、「白山交流館」(集会施設、写真2)では、高齢者クラブによる手芸やカラオケなどの趣味の場となっていたり、「文京総合体育館」(スポーツ施設)や「文京福祉センター湯島」(福祉施設)では、介護予防のための健康体操などの健康促進の場として利用されている。これら施設の多くは、文京区が所有する公共施設もしくは住民組織が所有する町会館であり、建物のバリアフリー化をはじめ、高齢者に対応した設備を有しているほか、施設規模が大きいこと等が、活用に至った要因に挙げられる。

(3) 住宅・事務所・店舗; 図1・2より、住宅・事務所・店舗は、8割以上が子どももしくは対象者を限定しない利用がされており、その多くが子育て支援・交流であった。聞き取り調査より、例えば、「風のやすみば」(住宅)では、親の帰宅が遅い子どもの預かりをしていたり、「千

石たまご荘」(事務所、写真3)では、特技や趣味を教え合い多世代交流を図っていたり、「わでかくらぶ」(店舗)では、おもちゃを使った遊びを通して親子でコミュニケーションを育んでいたりとしている。これら施設の多くは、前述した(2)の施設とは対極的に、小規模かつ段差等が多い民間施設であり、高齢者においては利用しにくい。一方、住宅街に立地していることから、近隣住民による見守り体制が整っていることや、店舗等の路面に位置しているところでは視認性が高く、人を呼び込みやすいこと等が、活用に至った要因に挙げられる。

また、そのなかで遊休施設を活用している事例が〔住宅〕に4件、〔事務所〕に1件の計5件でみられた。例えば、「みちこほうす」(住宅)では、課題を抱える子どもへの個別支援と見守り活動を行っていたり、「さきちゃんち」(事務所、写真4)では、放課後の子どもの遊びの場になっているなど、とくに遊休施設においては子育て支援に重点をおいた活動が中心であった。その理由として、前述した活用要素に加え、遊休施設の提供者が地域コミュニティに深く関与しており、文社協との充実した情報ネットワークが活用に至る重要な要素であると考えられる。

4. まとめ; 以上より、本研究では東京都文京区の「地域の居場所づくり」における施設に着目し、施設形態ごとに利用実態を明らかにした。今回の調査を通して、図3に示すような、遊休施設を活用した特徴もみられた。今後は、図3に示す5件の追加調査を行い、遊休施設を活用した「地域の居場所づくり」の実態についても考究していく所存である。

謝辞; 本調査にご協力頂いた文京区社会福祉協議会および当施設関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

補注; (1) 町会・自治会等を単位とする小地域での福祉活動を推進・支援するための組織を示す。 / (2) 従前の建物の主要用途を施設形態とする。 / (3) 活動内容においては、文京区社会福祉協議会の提供資料内のサービス概要から1団体につき1カテゴリ、主な活動内容を抽出した。

参考文献; 1) 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 HP, https://www.shakyo.or.jp/tsuite/jigyoo/research/20190405_book.pdf (最終閲覧日: 2019.9.23) / 2) 社会福祉法人 文京区社会福祉協議会 HP, <http://www.bunshakyo.or.jp/service/shouchiiki/support/> (最終閲覧日: 2019.9.23) / 3) 浄土宗 東光山 定泉寺 HP, <http://www.josenji.or.jp/topics/第11回こども食堂開催/> (最終閲覧日: 2019.9.23) / 4) 文京区高齢者クラブ連合会 HP, <http://www.bunkouren.net/web/2016/10/201610-2e64.html> (最終閲覧日: 2019.9.23) / 5) まちの情報基地 JIBUN メディア HP, <https://jibunmedia.org/?p=2677> (最終閲覧日: 2019.9.23) / 6) JIBUN マガジン HP, <https://jibunmedia.publishers.fm/issue/1797/> (最終閲覧日: 2019.9.23) / 7) 社会福祉法人 文京区社会福祉協議会 HP, <http://www.bunshakyo.or.jp/files/8215/3256/4205/29.pdf> (最終閲覧日: 2019.9.23) / 8) まちの情報基地 JIBUN メディア HP, <https://jibunmedia.org/?p=3195> (最終閲覧日: 2019.9.23)



写真1 定泉寺[参考文献³⁾より引用]



写真2 白山交流館[参考文献⁴⁾より引用]



写真3 千石たまご荘[参考文献⁵⁾より引用]



写真4 さきちゃんち[参考文献⁶⁾より引用]

施設形態	住宅				事務所
施設名称	こまじいのうち	こまびよのおうち	みちこほうす	キーベース	さきちゃんち
施設写真					
施設住所	本駒込5-11-4	本駒込5-11-6	関口1-12-3	本駒込2	小石川3-36-14
活用経緯	町内会で住民の交流が希薄であると話が上ったため	地域子育て支援事業開始により空き物件を探していたため	義姉が家を残して欲しいと言ったため	住民自身が地域貢献したかったため	こまじいのうちの所有者から活用を提言されたため
活用年月	2013年10月	2017年5月	2016年6月	2017年9月	2015年9月
対象者	子ども, 親子, 高齢者など	未就学児の親子	子どもと所有者の知人のみ	悩みを抱えている人など誰でも	主に小学生以下の子ども
施設概要	誰でも気軽に立ち寄れる居場所をコンセプトに老若男女が訪れる	子育て支援に特化しており育児相談や親同士の交流ができる	課題を抱える子どもへの個別支援と見守りをおこなう	地域の居場所と就労継続支援事業所の中間の場であり就労に関する相談をおこなう	子どもの放課後の遊び場や子育て中の親同士の交流ができる

図3 空き家等を活用した施設の一覧表[聞き取り調査および参考文献⁷⁾ ⁸⁾をもとに筆者作成]